

吉井川

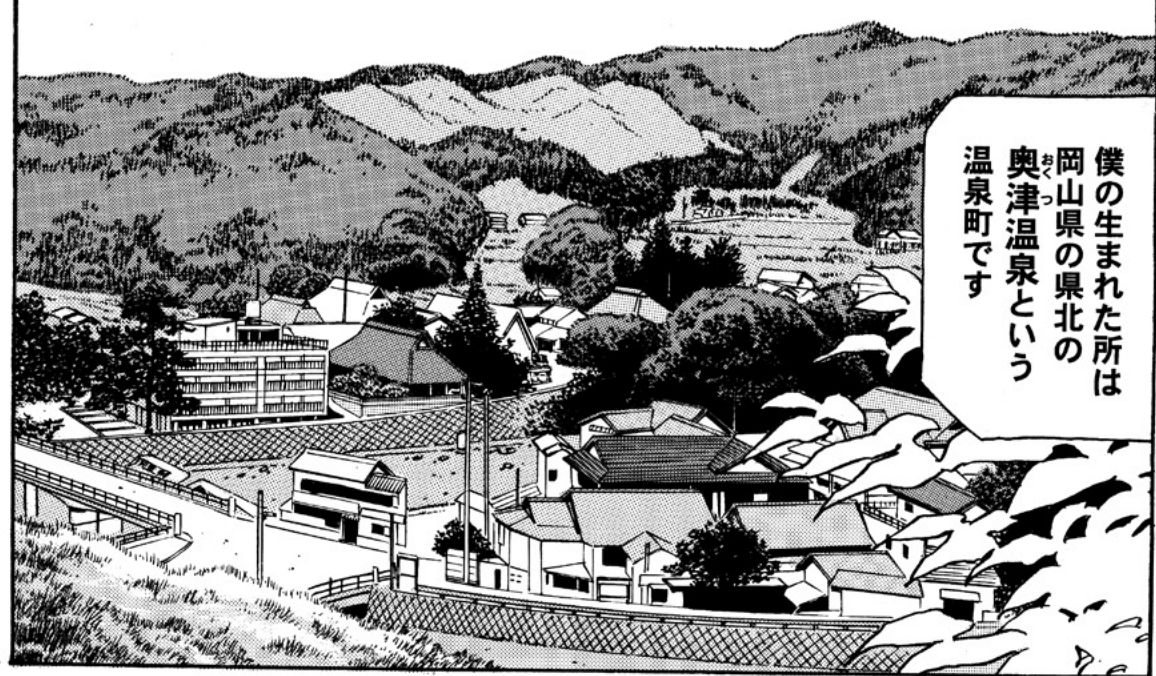


★ 操作方法 ★

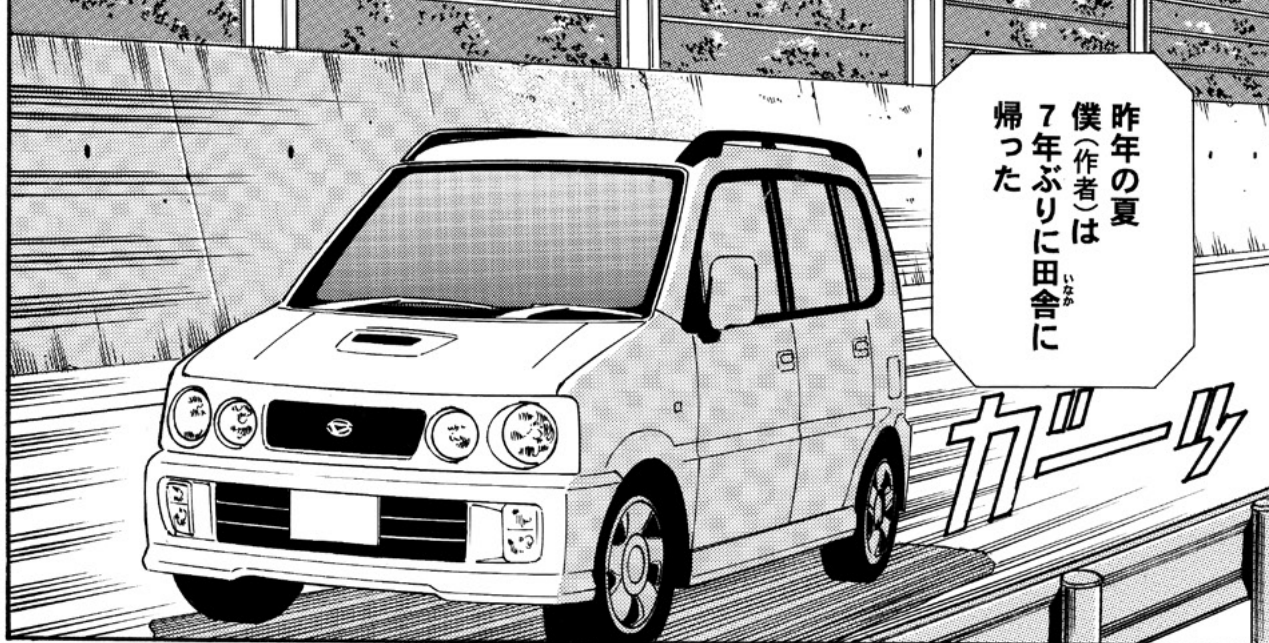
マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。



僕の生まれた所は
岡山県の県北の
奥津温泉という
温泉町です



昨年の夏
僕（作者）は
7年ぶりに田舎に
帰った



いつもついて
回っていた

まっぴりか
まっぴりか

うん



子供の頃
僕はおやじのオートバイの
うしろに乗って魚とり
連れて行ってもらうのが
大好きで

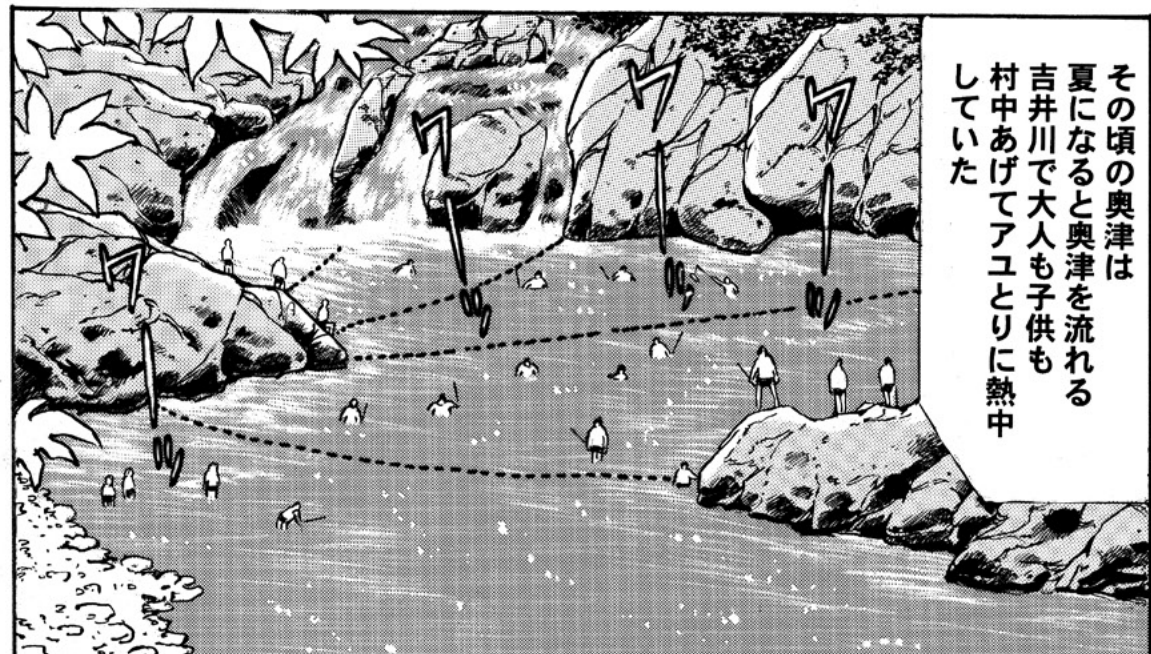


何年も田舎に帰ってなかった
姉は病室の窓から空を見上げ
ては「田舎に帰りたい」と
つぶやき

入院から4カ月のある日
「退院できそうだから一緒に
田舎に付いてきて」と病室から
僕のところへ電話してきて



それは2年前
急性骨髄性白血病
で亡くなった姉との
約束を果たすため

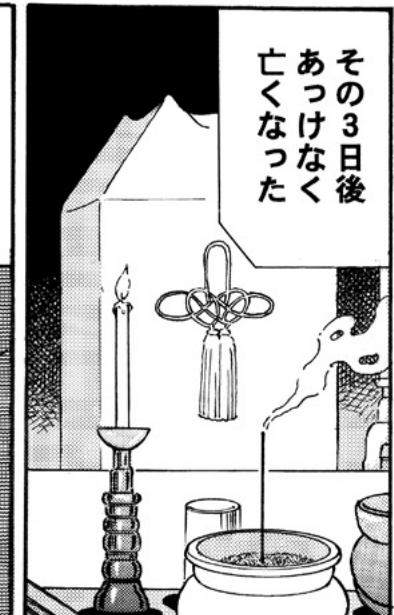


その頃の奥津は
夏になると奥津を流れる
吉井川で大人も子供も
村中あげてアユとり
に熱中
していた



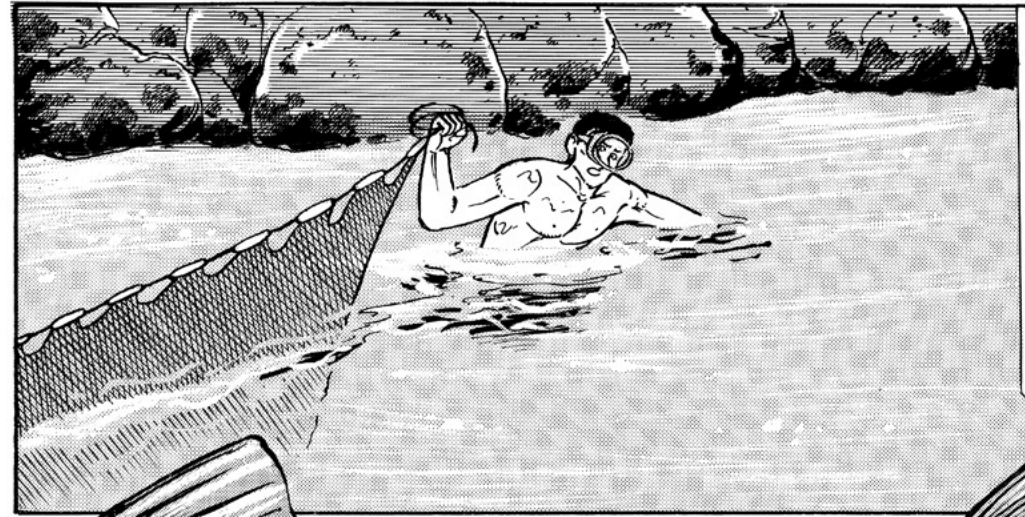
姉の写真を
ダッシュボードに
のせた僕は

姉の帰りがかった
田舎を見せて
回った

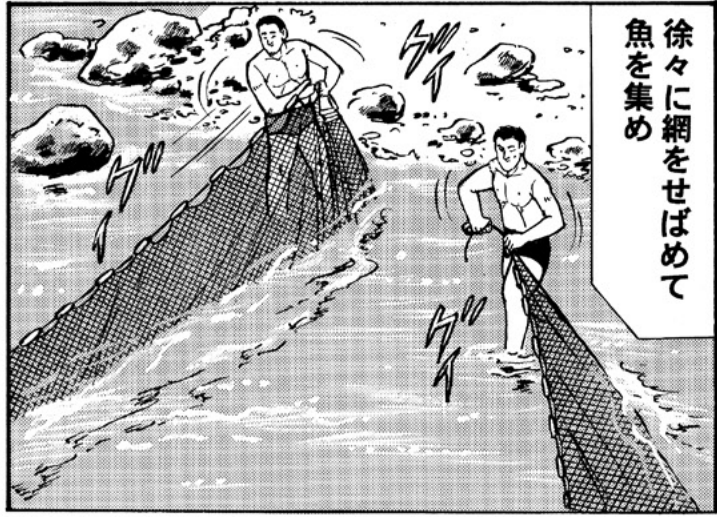


その3日後
あっけなく
亡くなった

それはあし網とよばれる網を
淵の上流と下流に何枚か入れ



徐々に網をせばめて
魚を集め



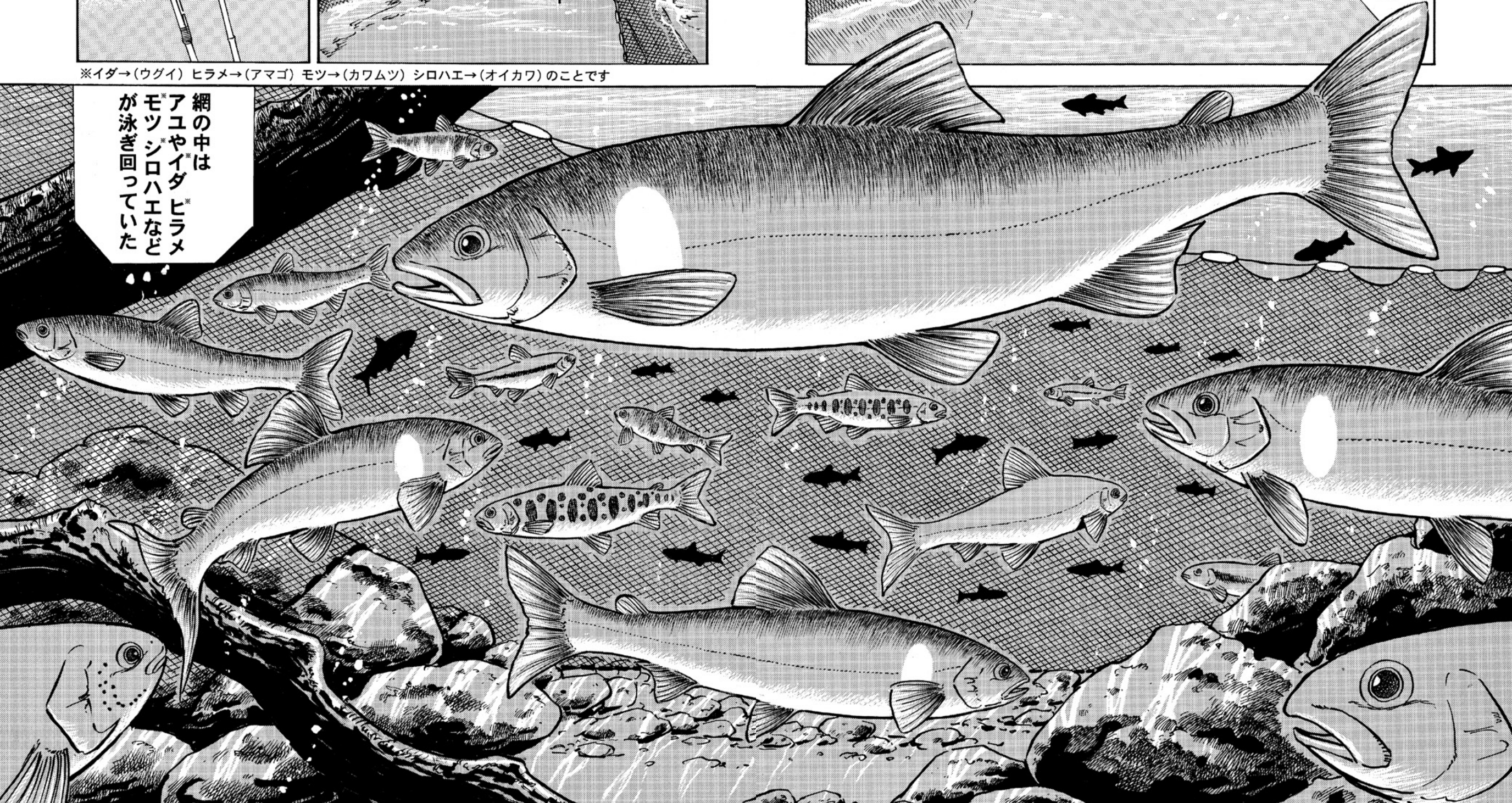
アユを引っかける道具で
アユを取るのだった

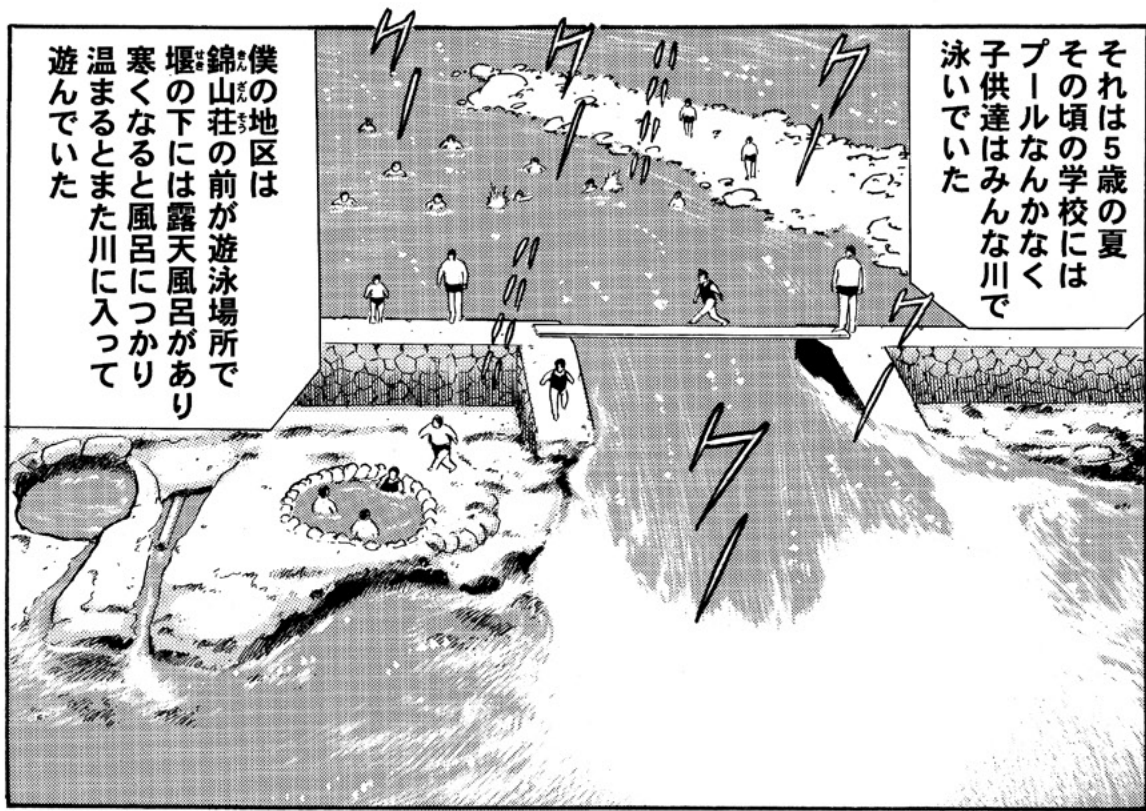


魚がひかかると
糸が出てにかさす

※イダ→(ウグイ) ヒラメ→(アマゴ) モツ→(カワムツ) シロハエ→(オイカワ) のことです

網の中は
アユやイダヒラメ
モツシロハエなど
が泳ぎ回っていた





僕の地区は
錦山荘の前が遊泳場所
堰の下には露天風呂があり
寒くなると風呂につきり
温まるとまた川に入って
遊んでいた

それは5歳の夏
その頃の学校には
プールなんかなく
子供達はみんな川で
泳いでいた



僕達小さな子供は
カゴ持ちで

おじさん
こっちこっち

いいかい
しっかり
受けとれよー

それっ



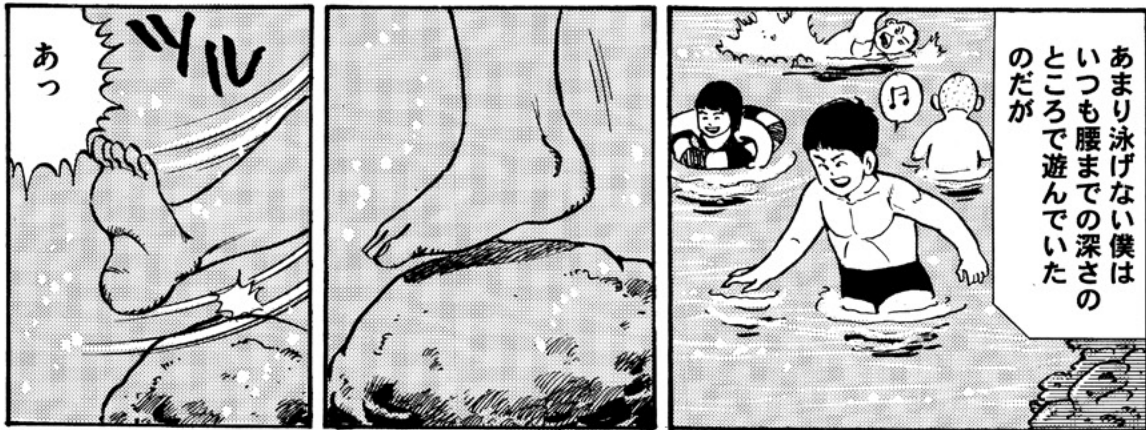
いて!!

なんだ
ヘタクソ

ズルッ

おっと

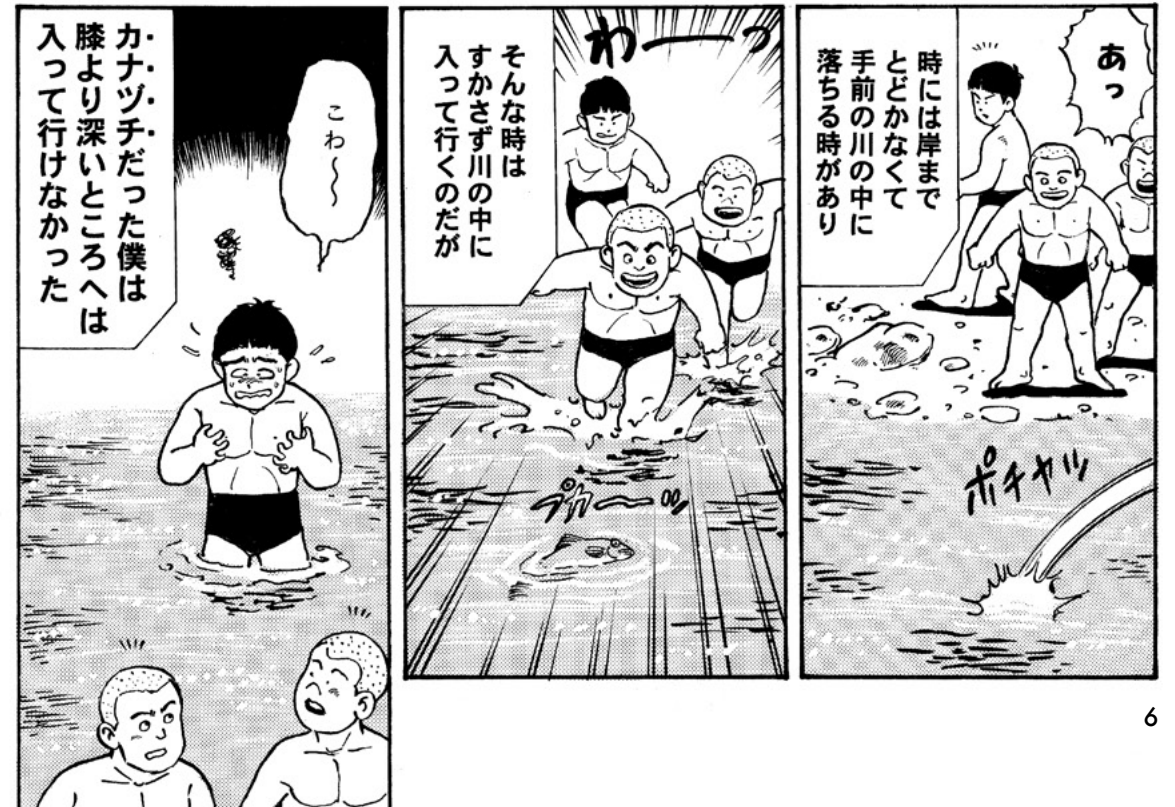
大人達が捕った魚を
カゴに集めるのが
仕事だった



あまり泳げない僕は
いつも腰までの深さの
ところで遊んでいた
のだが



乗った石がすべり
深みへはまった



あっ

時には岸まで
とどかなくて
手前の川の中に
落ちる時があり

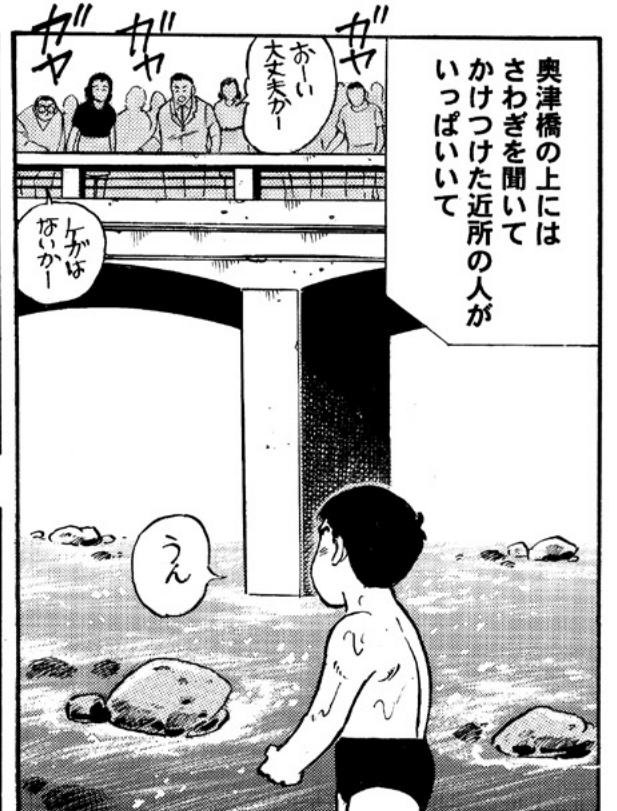
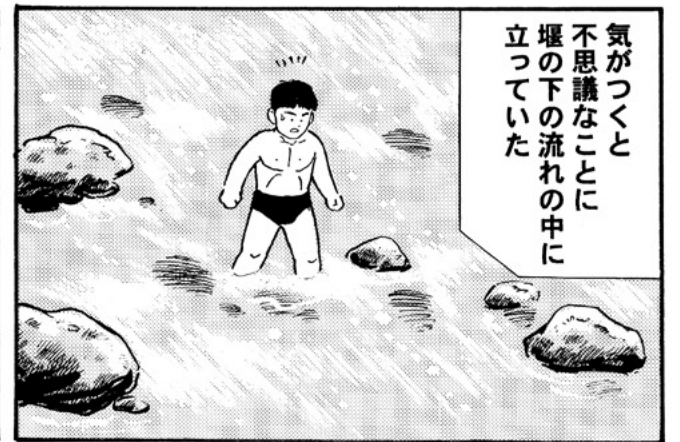
そんな時は
すかさず川の中に
入って行くのだが

カナヅチだった僕は
膝より深いところへは
入って行けなかった

こわ

わーっ

ポチャッ





おーい
すげー
あいつ向こう岸に
わたった



あーっ
みっちゃん



早く
早く
思いっきり
飛び込めば
平気だよー



あっ
直ちゃん
それにっつられて
直ちゃんまで
飛び込んだ



ぼ
僕はもう
清水の舞台から
飛び降りる
心境だった
アーメン



神様
死んでも
息があり
ますように



下級生2人が
飛び込んだ今
最上級生の僕は
もう死んでも
飛び込むしか
なかった

ばかー
なんでみんな
飛び込んだり
するんだよー



死にもの
ぐるいで
手足を
動かし



向こう岸に
ついた



そして6年生の夏
事件が起こった

その頃、遊泳場所は
錦山荘の前から
僕の家裏の河原に
かわっていた



みっちゃん
直ちゃん僕の
泳げない3人組は
いつもその石まで
入ってまた引き返
していたのだが

みっちゃん
直ちゃん
僕



なあ
僕達も
向こう岸に
行けないかな
えーっ



そこは川の真ん中に
大きな石があり左が
急流になっていた

泳げる人は石の上から
飛び込んで向こう岸に
わたっていた



この距離なら
思いっきり
飛び込んだら
着かないかな

ムリムリ
やめとけ
やめとけ



ぼか
やめとけ
おぼれて
死ぬぞ
そーかな



こちーッ
まだ入るんじや
なーい!!



わーッ
みんな我先に
入っていった



先に網を
点検せんか
せつかく
追い込んだ
アユを
にがす気か

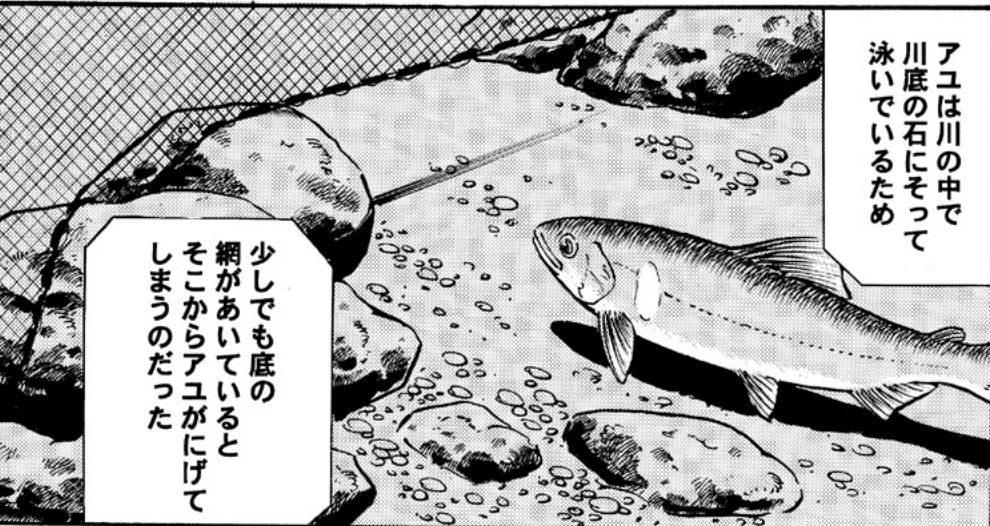
あっ
そーか



やった
泳げたー!!



これをきっかけに
ますます僕は
おやじにくっついて
魚とりに行った



アユは川の中で
川底の石にそって
泳いでいるため



まったく
最近の若い奴は
網の入れ方も
知らん

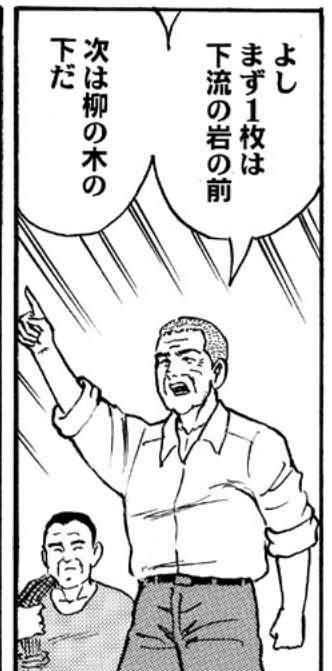
昔も今も
若い人はよく
怒られた

少しでも底の
網があいてると
そこからアユがにげて
しまうのだった



どーだ
見えるか

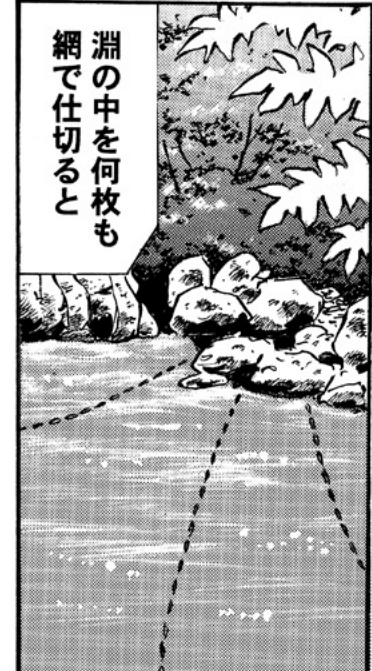
いる
いる
いる
いる
いる



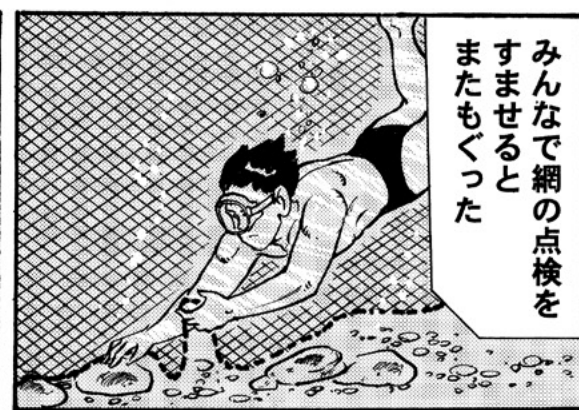
よし
まず1枚は
下流の岩の前
下だ
次は柳の木



長老の指示で
網を入れる場所が
決まると
泳ぎの達者な大人が
網のはしを持って
向こう岸まで泳いでいった



淵の中を何枚も
網で仕切ると



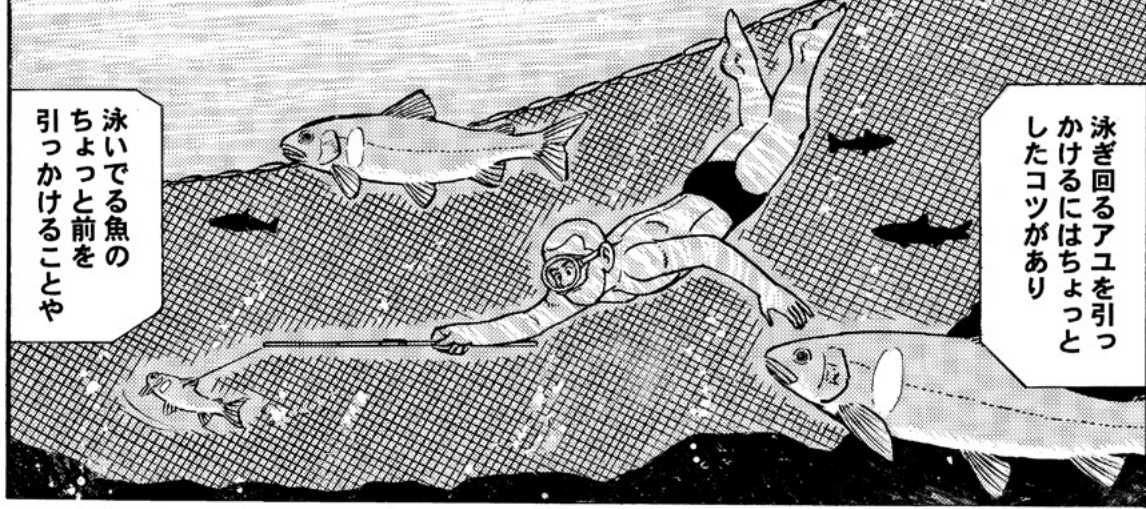
みんなで網の点検を
すませると
またもぐった



もちろん
泳げるようになった僕は
カゴ持ちから昇格
大人にまじって
アユを追っかけた

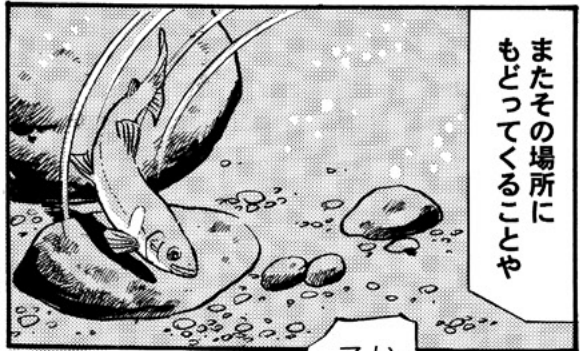
ハア

中学生にならな
女将主になら

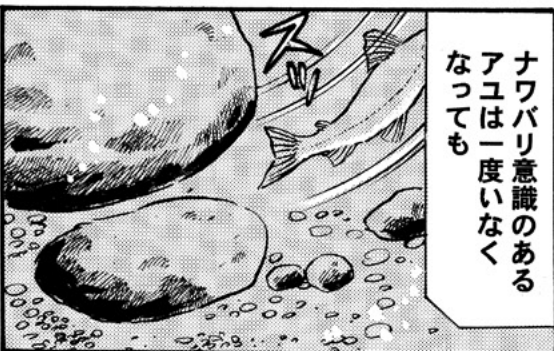


泳ぎ回るアユを引っ
かけるにはちよつと
したコツがあり

泳いでる魚の
ちよつと前を
引っかけることや



またその場所に
もどってくることや



ナワバリ意識のある
アユは一度いなく
なつても



いた
アユだ!

暗闇の中で口元が
白く光って見つけ
やすいことなど

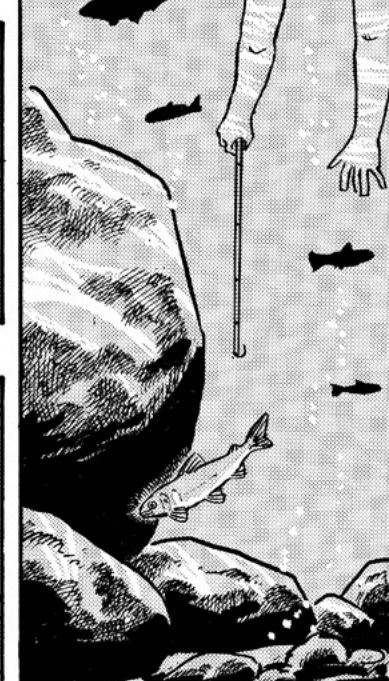
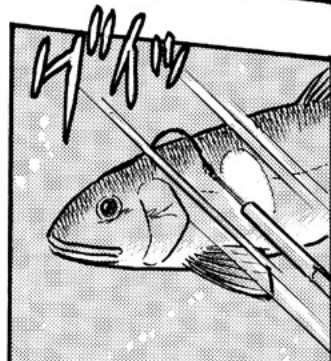
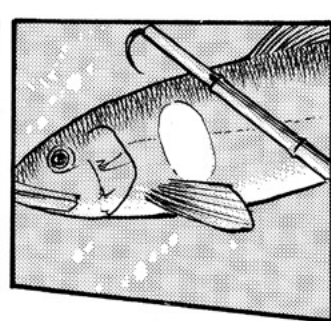


おどろいた
アユが石の中
入ると

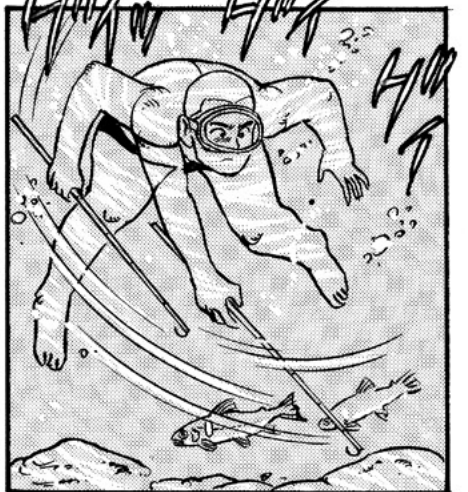
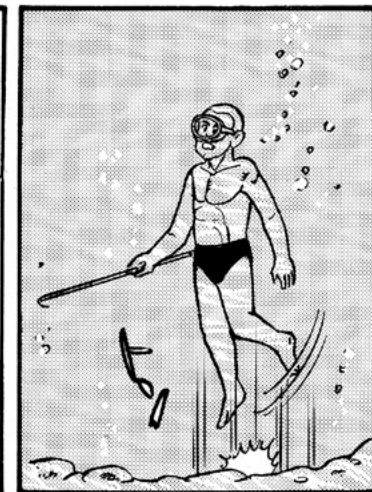
アユの口は白い
ため息をもらして
じっと待つと



そんなことが少しずつ
分かってきた僕は徐々に
うまくなつていった



ハア...



淵にたまった水は
流れがないため
表面はあたたかい
のだが1m以上
もぐるとビツクリ
するほど冷たい

みんちんはくついで
体を冷やさないで



ちよつと
あたたま
ろうよ

う〜
さむ〜

もちろん
そんなに簡単に
とれるようなアユ
はいなかった

ハア



ハア
ハア

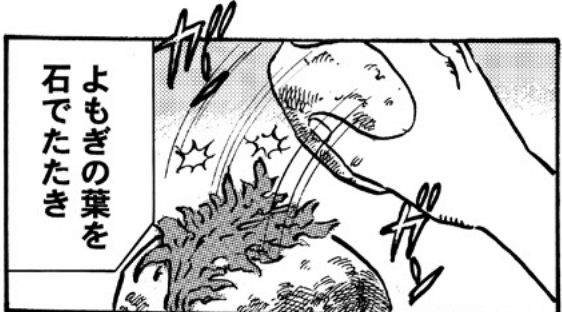


久田川は
同じ吉井川で
落合橋の上流が
奥津漁協で
下流が久田漁協と
漁業組合が分か
れていた

あれ
もう20年か

そーいえほ
ずいぶんアユ
とりをやつて
ないなあ...

そーか
久田川の
解禁かあ



よもぎの葉を
石でたたき



水中メガネを
ふき



大きく息を
吸うと

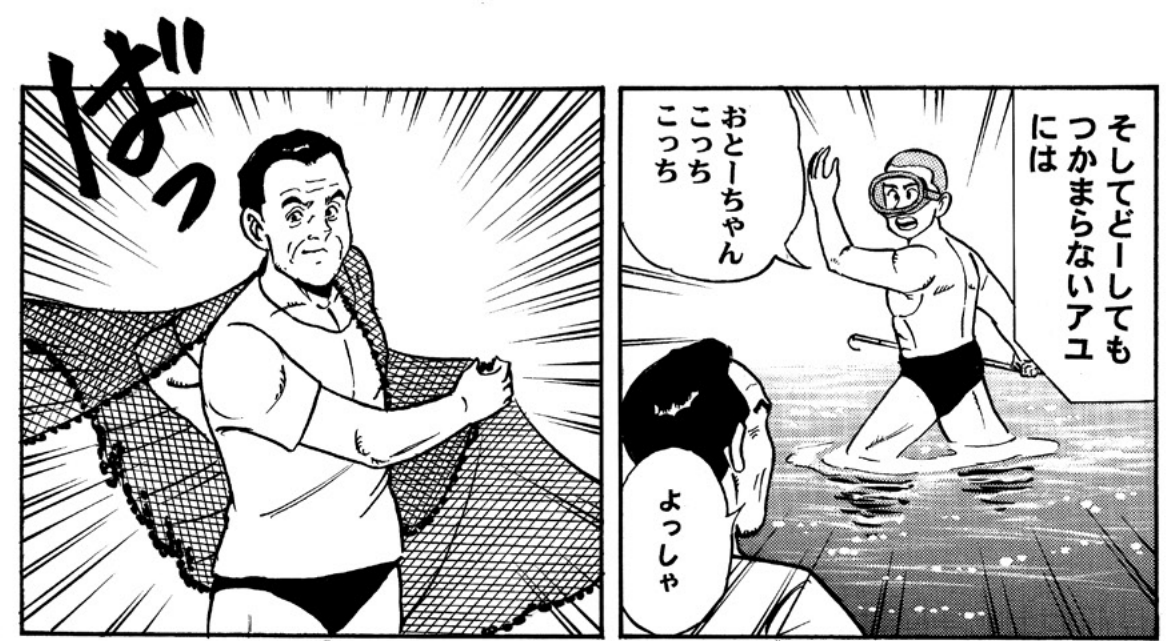


翌日
僕は兄貴と一緒に
20年ぶりのアユとり
に挑戦した

うーん
ひさびさで
緊張する



もぐって
行った



そしてどーしても
つかまらないアユ
には

おとーちゃん
こっち
こっち

よっじゃ



岸で待ちかまえる僕の
おやじが投網を打った

おやじは
投網の名人
だった



そして7年ぶりに
田舎へ帰った夜

久田川の
解禁!?

兄貴
明日は
久田川の
解禁なのか!?

ああ
おまえも
行くか

ああ
行く行く

しかしそこには
アユの動きについて
いけず鉤を右に
引っかけて折り
ポーゼンとする自分
がいた

今まで一度も
折ったことは
なかったのに

そっちへ
行ったぞ
えっ



兄貴も投網を
打つように
なったのか



子供の頃、僕は兄貴と
よく「夜振り漁」に
行っていた

※カーバイド↓炭火カルシウム水につけるとガスがでる

その頃の「夜振り漁」
は1人がカーバイドを
入れたガラスランプを
持ち



突き手の前を
照らす方法で

いつも兄貴に
怒られた



「ゴロ〜っ
もつと前を
照らせと言っ
てるだろ!!」

ごごめん



兄貴が1時間
箱メガネを
のぞくと

帰るか



え〜っ
今かわった
ぼっかりなのに〜

僕の番は
5分ぐらいで

内気な僕は
いつも兄貴に
さからえず

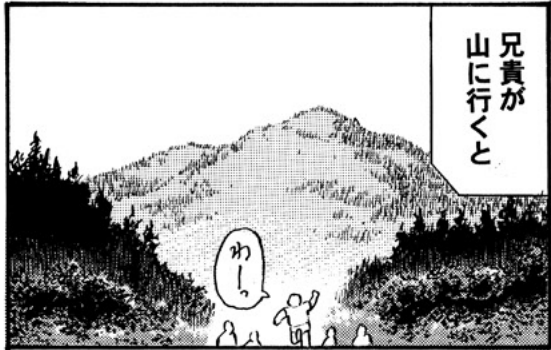
ちゃんと前を
照らせてって
言ってるだろ
バカ

短気な兄貴が
いつ怒り出す
かいつもビク
ビクしていた



ごごめん

兄貴が
山に行く



おぼちゃん
のんちゃんが

かき
かき

転んで鉄板の角で
頭をザツクリ切っ
てかきき込まれ



川で
飛び込むと



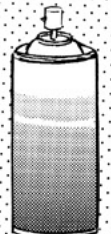
おぼちゃん
のんちゃんが

かき
かき

石の角で頭を
ザツクリ切っ
てかきき込まれ



スプレー缶を燃や
すと爆発すると
聞いた兄貴は



スプレー缶
を燃やし

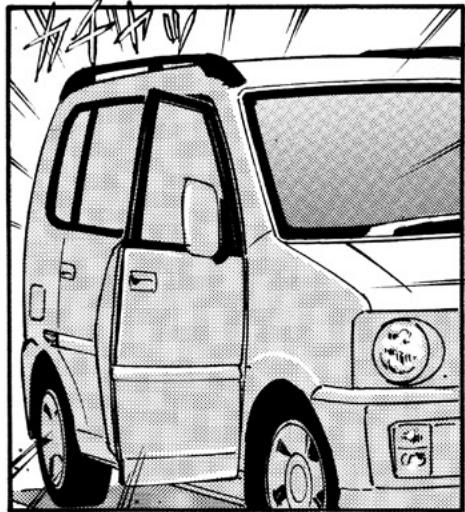


顔から
血を流した

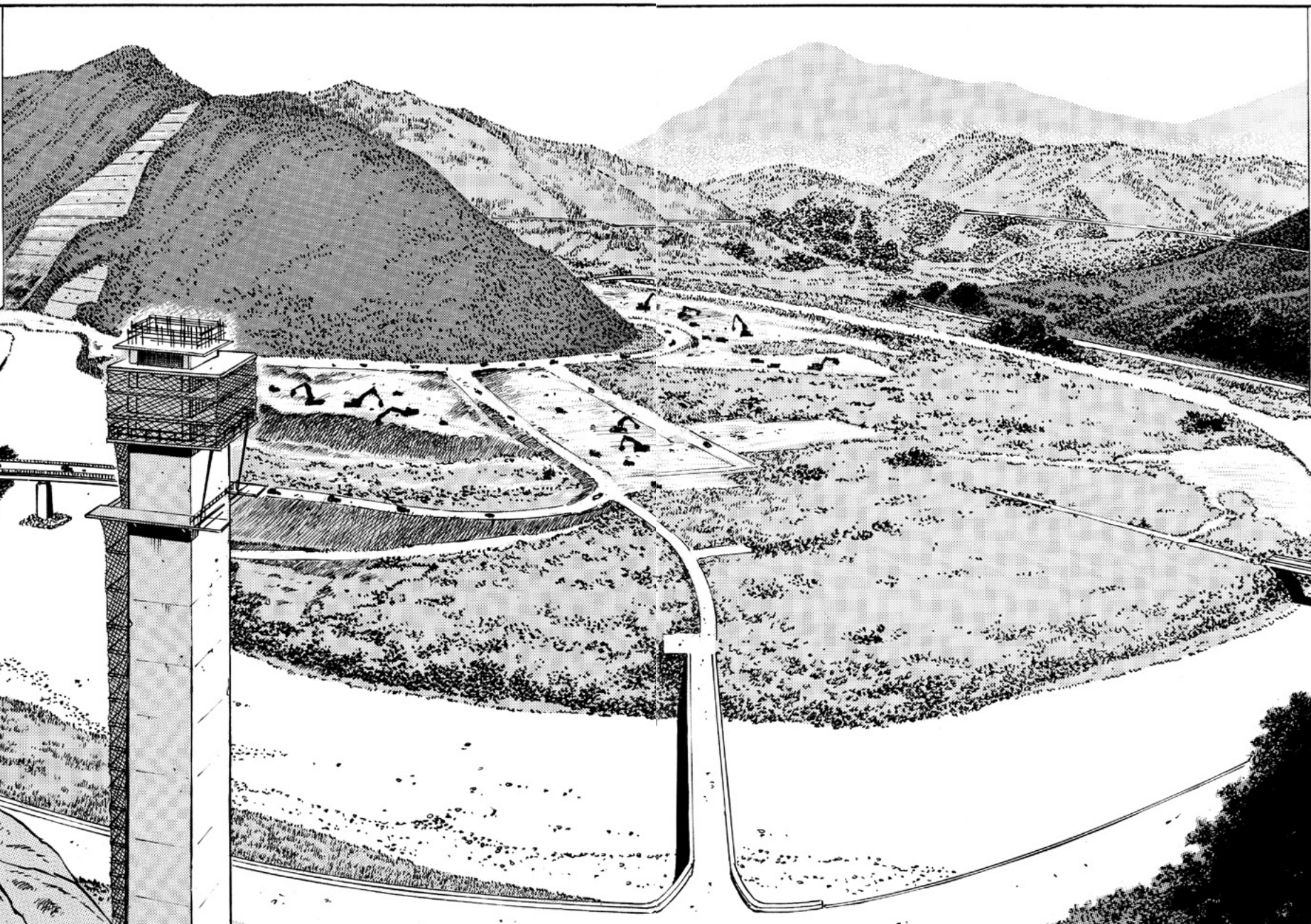
まったく僕とは
正反対の兄貴だった







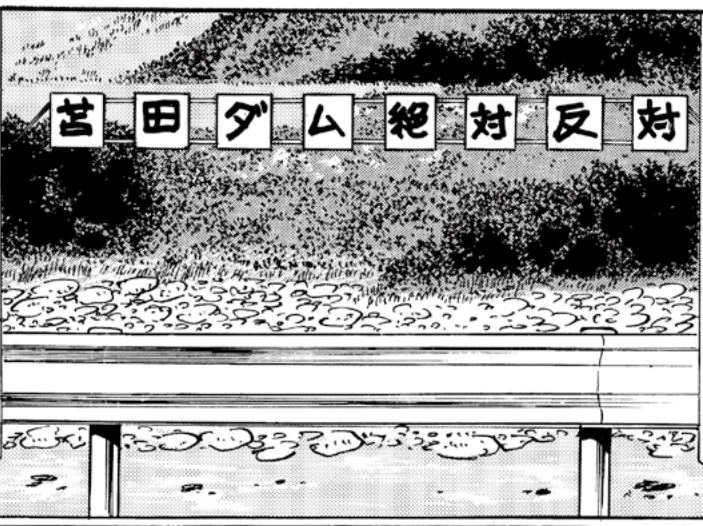
しかし30年後
最初の予想とちがい
思ったように人口の増加はなく
電力もあまり気味で
ダムの必要性はなくなった



35年前——
このままいけば人口増加で
電力がたりなくなると想定した
電力会社は吉井川に
吉田ダムを造る計画を発表した

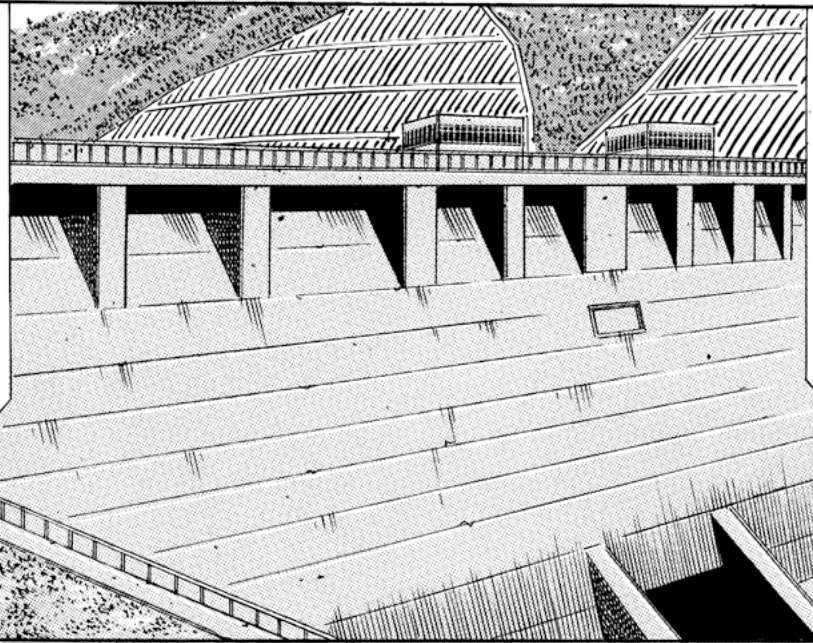


しかし一度スタートした
公共事業は途中でストップする
ことはなかった

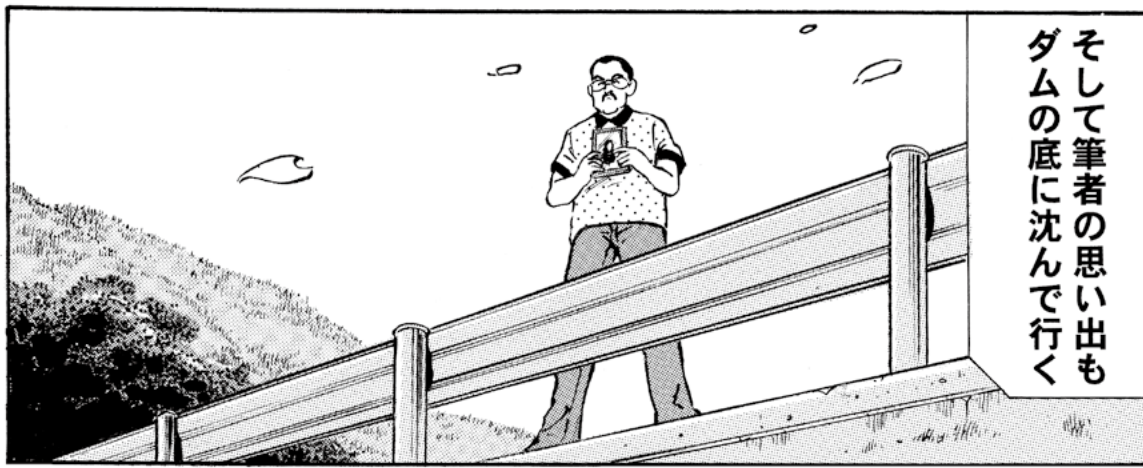


この100年で2700ものダムを
建設してきた日本……冷心病
ヘド口問題 海岸線の縮小など
数々の弊害が問われる今 米国
では94年ダム開発の中止・
撤去を発表している

筆者の生まれ故郷は
半分ダムの底に沈む



電力の必要のなくなった
苦田ダムは3年後
「観光ダム」として完成し



そして筆者の思い出も
ダムの底に沈んで行く

※参考 天野礼子『日本の川はすくえるか』(つり人社)